

▶ 第16回目となる今回は、甲府市立甲府商科専門学校 会計情報科 1年 雨宮聖香さんが、株式会社 エフエム甲府 常務取締役 川崎博氏 を取材しました。



経営者

株式会社 エフエム甲府
常務取締役

川崎 博氏

コミュニケーションは キャッチボール

学生



甲府市立甲府商科専門学校
会計情報科

1年 雨宮 聖香さん

▶ 学生

御社を山梨学院大学内に設立した理由をお聞かせください。

▶ 経営者

放送局には放送対象地域があり、エフエム甲府は山梨県全域ではなく、甲府地域が対象になっています。つまり放送する内容も、それぞれの放送対象地域に合った情報になるわけです。エフエム甲府が放送する情報の多くがある大学は、設置場所として最適な場所なのです。近年、多様化されたメディア社会で、特に最近の若い人達がラジオを聴くことはあまりないでしょう。若者に聴いてもらうためには、まず、彼らがどんな情報に興味があるのかを知らなければなりません。大学のように多くの若者が集まる場所では、若者向けの色々な情報が入ってきます。それも社屋をここにした理由です。

▶ 学生

エフエム甲府を設立してからの、ご苦労などについてお聞かせください。またそれをどのようにして解決してきましたか。

▶ 経営者

これといって大きな問題はありませんでしたが、困ったことなら人があまりにも少なくなってしまうことですね。もともと少人数で構成されていますので、やはり一人でも抜けてしまうとその人が担当していたことを残った人だけで分担してフォローしなければならなくなってしまい、とても大変です。放送という仕事があり好きではないのに、給料や特に理由もなく何となく入社を決めた人は、辛いとか、もうしたくないなど弱音を吐いてすぐに辞めてしまうんですね。そういう人が多くと、どんどん人が少なくなってしまうんですね。逆に好きで入社してきた人は、そう簡単に辞めたりしませんし、大変なことがあっても楽しんで仕事をしています。そのお陰で、人が少ないという状況も乗り越えられました。

こういうことにならないためにも、入社する前に、自分はその仕事に興味や関心があるのか、その仕事が好きなのかをしっかりと考えること

が大切です。興味も無く好きでもない仕事をずっと続けることは、とても難しいですからね。そのためにも、第三者に自分にこの仕事は合っているかと聞いてみることも良いです。冷静な意見が聞け、考え方が変わるかもしれません。就職してすぐに辞めてしまうことのないように、そういう確認をみなさんにして欲しいですね。

▶ 学生

放送という仕事に携わって良かったと思うことはありますか。

▶ 経営者

とにかくたくさんありますよ。たとえば、担当している番組をたった一人だけしか聴いていなくても、地域の放送局というものはその方のために番組を続けます。そして番組宛てに、その方からハガキなどの反応があるとすごく嬉しいものです。そうすると、次も頑張ろうと思えます。

他には、前に病院で大きな手術があって、そこで輸血する血液が足りなくなってしまったときがあったんです。しかも、その血液型が世界でも珍しいRH-(マイナス)AB型でした。そこでラジオでその血液型の人に血液の提供を募って欲しいと病院から頼まれ、早速放送しました。すると県内にも少ししかないその血液型の半数以上の方が、病院へ駆けつけてくださったんです。その病院まで遠い方もいたのに、患者さんのためにわざわざ来てくださったんです。地域の放送でここまで人が集ってくれることは、ほとんどありません。偶然ラジオを聴いてくれた方が情報を拡散して、そのことを知った「RH-(マイナス)AB型」の方たちが集まってくださったのです。そして、放送の素晴らしさとこの仕事をしていて良かった、と思いたいとき。

取材を終えて...

放送というお仕事の経験と豊富な人生経験もありなので、川崎常務のお話はとてもわかりやすかったです。放送について素人の私が理解しやすいように、例え話など工夫して回答してくださいました。いよいよ就職活動の私にとって、聞く立場に心配りをするコミュニケーションの大切さを体感できた取材でした。ありがとうございました。

▶ 学生

エフエム甲府では、どんな人材を求めているのでしょうか。

▶ 経営者

ラジオ放送局の仕事は声を扱う仕事なので、それを活かした色々な仕事をします。たとえば、通常の放送以外に地域のお祭りに参加したり、入学式や卒業式、その他さまざまなイベントの司会や音響などを担当します。さらには商品開発もしたり、とにかく幅広く色々なことをします。ラジオとお店の仕事は大体半々くらいですね。ですから、こちらが求める人材は、やる気があって、放送という仕事が大好きで、何でもできるオールマイティな人です。そして話すことが仕事の放送局で一番大切なことは、やはりコミュニケーション能力がきちんとある人ですね。コミュニケーションがきちんとできると言っても、質問されたことにただ答えられればいいというわけではありません。コミュニケーションはキャッチボールです。相手が何を伝えたいのか、何を分かって欲しいのかをしっかりと聴いて、理解してあげられることが大切なのです。たとえば、若い人が老人や小さなお子さんとキャッチボールをするとき、自分と同世代の仲間と同じように投げたりはしません。怪我をしないように、力量や身体の違いを考慮して力を加減したり距離を縮めたりして、相手に合わせて対応しますよね。コミュニケーションとはこういうことなのです。色々な仕事をやる上でコミュニケーションをとるとはキャッチボールをするのと同じなことなんです。ですから、コミュニケーションのキャッチボールがきちんと出来る人、それが私たちエフエム甲府が求めている人材です。

